

ときめき人

Tokimeki bito

地元を愛し 陶芸で 地域に貢献

米山町・江浪

鈴木 由香さん

すずき ゆか
1978年生まれ 血液型/O型

Profile

米山町出身。沖縄県「壺屋焼」と栃木県「益子焼」を学び、第28回河北工芸展では最高賞の「河北賞」を受賞。予約制で陶芸体験ができます。詳しくは日高見窯のホームページをご覧ください。



「陶芸は、焼きあがるまでどんな姿になるかわかりません。同じ素材や染料を使っても、イメージしていたものよりいい色が出て想像を超えることがあるんです」と奥深さを語る鈴木さん。自身が米山町に構えた陶芸工房「日高見窯」で作品を制作。落ち着いた色合いと柔らかな輪郭の作風は人の心を和ませている。

鈴木さんが陶芸家を志したのは18歳の時。旅行で訪れた沖縄県でシーサーの力強い姿に心を奪われたことをきっかけに沖縄県の工房で修業。陶芸を学ぶうちに「いつか自分の工房を持ちたい」と憧れを抱くようになった。その後、栃木県の工房で益子焼を学び、さらなる表現力と技術を身に付けた。自分の持つ技術を生まれ育った登米市のため

に役立てたいと2004年に帰郷。少しでも地域に貢献したいという思いから、登米市で採れた粘土などを積極的に使用している。「地元の素材を使うと、優しい雰囲気の作品に仕上がるんです。現在は飲食店と連携して器と食材の地産地消に取り組んでいます」と笑顔を見せる。

「以前、陶芸教室に参加した児童の保護者が、『子どもが自分で作った器を使ったら、好き嫌いなく食べるようになった』と話していたんです。これからは食育につながるような取り組みをしていけたら」と新たな試みに意欲を見せる。「これからも作品を作りながら、登米市の魅力を発信していきたいです」鈴木さんの地域の活気を形作る活動は続いていく。

編集後記

▼中総体で奮闘する中学生の姿に感動。私は野球をしていましたが、当時は水分補給が制限され、練習も厳しくて辞めたいと思ったことは数知れず。そう思っても、もう終わりだと思わずと寂しくなって、振り返ると楽しかったとさえ感じるから不思議です。それが青春ってやつか。(高橋)

▼私は英語が苦手です。海外からの青少年訪問団を取材中、高校生が英語で交流している姿に感心。私もインタビューを試みたのですが、言葉が出なくて何とかコミュニケーションを取ろうと勢いでジェスチャーをしていました。思い返すと変な動きをしていたと反省しています。(木戸浦)

▼夏です。楽しくお過ごしですか。じめじめ、イライラしていませんか。深呼吸をする、運動する、音楽を聴く、好きな映画を見る、辛いものを食べる、友達と会って話す、旅行する。皆さんのストレス解消法は何ですか。私は、専らお酒を飲みに行くことです。(渡邊)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomemiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomacity/>

